

## ロンハーマン、ソーラーシェアリング事業を始動 電力を店舗に供給

2021年08月31日掲載

記事を印刷

記事を保存

メールで共有



画像は別施設（出所 サザビーリーグ）

サザビーリーグ（東京都渋谷区）は8月27日、ファッションブランド「Ron Herman（ロンハーマン）」事業において、「2030年までにCO2排出量実質ゼロ」実現に向け、再生可能エネルギー事業を始動すると発表した。千葉県匝瑳市にソーラーシェアリング施設を新設し10月15日から稼働する。

今回のプロジェクト「ロンハーマン匝瑳店」は、ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）事業を手がける市民エネルギーちば（匝瑳市）と、匝瑳市の地元農家とのコラボレーションにより展開する。発電した電力はロンハーマン店舗へ供給し使用、ソーラーシェアリングのパネルの下では有機農業を行う。また使用する太陽光発電パネルはすべてリサイクルパネルを用いて建築する。

「ロンハーマン匝瑳店」の土地面積は3,162m<sup>2</sup>、太陽光発電容は87.44kW。年間予測発電量（初年度）は約9万kWhを見込んでおり、この電力量はロンハーマン名古屋店で使用しているエネルギーとほぼ同量となる。この電力は、みんな電力（東京都世田谷区）を通じて、すでに同社と提携しているロンハーマン福岡店へ供給する予定。

サザビーリーグは、「ファッションの枠を超えた新しい取り組みに、私たちはとてもワクワクしている」とコメントしている。このプロジェクトは今後も拡大していく予定。

### 地元やさまざまな企業と協業

ロンハーマンは2021年5月、「LOVEのある本質的なサステナビリティに取り組みたい」として、サステナビリティ・ビジョンを本格的に発表した。その中の1つとして、「2030年までにロンハーマン事業のCO2排出量実質ゼロ」を掲げている。なお、このCO2排出量は、スコープ1・2（社用車、店舗や所有建物の電力などを指す）を対象としている。

その実現に向けて、協働してソーラーシェアリング設備を新設する新プロジェクトは、サザビーリーグと市民エネルギーちばの経営陣が、日本エシカル協会（東京都渋谷区）が主催するセミナーにも参加したことがきっかけとなり、立ち上がったという。

ソーラーシェアリングは、太陽光をつかったエネルギーの生産だけでなく、その下で有機農業を行うことにより土壌を回復させ、さらに、植物の根や土壌の微生物を活かし、農地を耕さない「不耕起栽培」に切り替えていくことで大気中からのCO2を吸収するというカーボンニュートラルへの貢献も期待されている。

市民エネルギーちばは、環境保全型ソーラーシェアリングのトップカンパニー。「自分達で市民発電所をつくろう」と、千葉県内の環境や自然エネルギーに関わる有志が2013年に設立した。エネルギー、地域、大地の再生、環境問題にトータルで取り組んでいる。

再生可能エネルギー事業者のみんな電力は、「世界の電力に、選べる自由と楽しさを」をコンセプトに、日本初の「顔の見える電力」として再生可能エネルギーの生産者を応援、また民間への利用を実現可能している。再生電力の利用拡大を目指している。

Ron Hermanは、1976年に誕生したカリフォルニア発のファッションストア。世界中から集めたファッションウェアやプロダクト、カフェを展開している。グループの中でもサステナビリティに本格的に取り組んでいる。アパレル業界最大の課題である余剰在庫の削減のために需給の最適化を行い、プロパー消化率80%を目指し、2023年までに店舗でのセールを廃止する予定。